

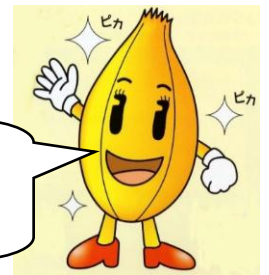
9月下旬の多雨により大麦の播種作業は遅れ、出芽苗立ちが不足している圃場が見られます。今後は、排水溝の手直しなど排水対策を徹底し、生育量の確保に努めましょう。また、分施肥体系の場合は、播種後1か月を目安に追肥を遅れないように施用しましょう。

1 排水対策の再確認

- ① 畦や排水溝に水が溜まっていないか。
- ② 排水溝が埋まっていないか。
- ③ 水吐尻が低く掘り下げてあるか。
- ④ 水口がしっかり止まっているか。

以上の4点について確認し、問題があれば、溝の手直しや排水溝と排水口の連結、水吐尻の掘り下げなどを徹底しましょう

大麦栽培の基本は
排水対策の徹底!!



2 年内追肥(分施肥体系の場合のみ実施)

越冬前に適正な生育量を確保するため、播種後1ヶ月頃の追肥を遅れずに施用しましょう。

施肥時期	肥料名	施用量(10aあたり)
播種後1ヶ月頃	硫安	20kg

※LP大麦48号を施用している場合は必要ありません。

次の場合はJAアルプス各営農センターへご相談下さい。

- LP大麦48号が規定量入らず、茎数が少なく葉色が薄い場合
- 分施肥体系で12月上旬に茎数が少なく(500本/m²以下)、葉色が薄い場合